

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

(平成22年度事業)

事業の概要				根拠法令・例規等
事業開始年度				
昭和52年～				
総合計画	大項目	基本目標	02	
計画	中項目	基本施策	01	健やかで生き生きしたまちづくり
	小項目	施策	母子保健(歯科保健を含む)	
事務事業名				
02				マザースクール事業
このシート作成に要した時間				2.0 時間

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	主に言語及び情緒の発達ที่气になる就学前の幼児とその保護者
目的(何のために)	子どもの発達と子育ての方向性を保護者と一緒に考え、育児不安の軽減と育児力を高めることを目的に実施する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	子どもの発達が促進され、保護者が子どもの成長発達を受け入れ、適切な養育につながる。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	マザースクール事業	主に言語発達等が気になる就学前の幼児とその保護者に対し、子どもの発達と子育ての方向性を一緒に考え、育児不安の軽減と育児力を高めることを目的に週2回通所による集団遊戯訓練、個別訓練、個別相談、週1回開放日(月1回は交流会)を実施する。	

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費	直接事業費	千円	2,657	2,653	2,630
	必要人員・人件費	千円	0.22人	0.26人	0.31人
決算額	事業費計		4,088	4,285	4,555
	国・県支出金		1,321	1,326	1,315
	受益者負担				
	繰入金				
	その他(市・県・市債)				
一般財源		2,767	2,959	3,240	
受益者負担比率	%	-	-	-	
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標	結果指標量	事業	995	1,075	1,124
	対前年比	%	89.4%	108.0%	104.6%
	活動コスト	円	4,088,000	4,285,000	4,555,000
	単位当たりコスト	円	4,109	3,986	4,052

事業の成果					
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
保護者の不安や悩みが軽減された割合	目標値(A)	90%	90%	100%	100%
	実績値(B)	83%	100%	90%	到達目標値
	達成率(B/A)	92.22%	111.11%	90.00%	100%
成果指標設定の考え方・式や説明					
年度末にマザースクール参加者にアンケートをとり、マザースクールに通所したことによる母親の変化として「子どもに対してイライラが少なくなった、不安が軽減された、前向きに育児に取り組めるようになった」割合を計上。					

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準	A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input checked="" type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	妥当性評価 <A~E> <b>A</b>
	必要性	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するため以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> <b>B</b>
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 <A~E> <b>B</b>

事業の有効性や成果性を評価する際の留意点

進行年度(H23年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	平成22年度から実施しているマザースクールと保育園障害児部会保育士との交流会を有意義なものとしていくため、目的や内容を関係者が共通認識のもと開催できるよう軌道にのせていく。						

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準	A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い
身近な場所で継続した通所により、子どもの成長発達を促し育児支援を行うことで保護者が子どもの成長発達を受け入れ、子育ての方向性を見出す力を身につけることができたり、必要な事業である。母子を継続して支援していくためにもマザースクールや保育園の役割を関係者が共通認識でき、支援者のスキルアップや共通した支援の在り方を考えていけるよう事業の実施を通して考えていく。	評価区分 <A~E>	<b>B</b>	

平成24年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	マザースクール事業の役割を関係者間で共通認識し、連携して母子の支援を行っていただけるよう事業の継続と充実にむけた取り組みを推進していく。						